

テキスタイルフリーマガジン「エムエー」

mA

Textile freemagazine edited by Tama Art Univ.

Vol.04
2018AW

Take Free
0

○特別インタビュー
テキスタイルアーティスト
小林万里子 さん

○第4号 「旅とテキスタイル」

クリアな色で自由に表現

和紙の質感を損なわないように顔料や布用染料よりも粒子の細かい染料を使い、紙に入り込みやすく特別に調合した和紙専用の染料です。液体なので手軽に染色でき、にじみ・混色も楽しめます。



全8色



5色セット



みやこ染
MIYACOZOME

和紙ぞめカラー

WASHI PAPER DYE

EN71 Part3:2013 取得

「玩具の安全に関する最新の欧州規格」に適合しているので、どなたでも安心してお使いいただけます。

Official Website



@info_miyacozome



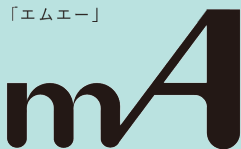
<https://www.facebook.com/MIYACOZOME/>



<https://www.instagram.com/miyacozome/>



テキスタイルフリーマガジン
「エムエー」



vol.04 2018AW

What is mA?

mA（エムエー）は、多摩美術大学
テキスタイルデザイン専攻の有志
学生で発行しているテキスタイルフ
リーマガジンです。身の周りの様々
なモノ・コトをテキスタイルデザイ
ンというクリエイティブな視点か
ら、実際に見て聞いて感じ、探った
ことをたくさんの方へ発信
していきます。

CONTENTS

00/

旅。

p 4 ~ 5

01/

行ってきます、出会いへ

p 6 ~ 9 ワクワクは胸に？いいえ、鞆につめ込んで

02/

TABIでおじゃまします。

p 10 ~ 13

03/

ただいまから始まる新しい日々

p 14 ~ 17

04/

テキスタイルアーティストと旅

特別インタビュー 小林 万里子

p 19 ~ 23

【テキスタイル】とは？

世の中に存在する服飾やインテリアなどの布地・織物、
またその素材となる繊維質のもののことを指します。
また、「テキスタイルデザイン」とは生地や繊維につい
てのデザイン（設計）のことで、柄はもちろん、素材
や構造設計のことで配色などのビジュアルから機能性
まで含むデザインを指し、私たちの生活において欠か
せないものです。

人はなぜ、旅をするんだろう？

ある人にとっては日常の殻からはみ出す

一つの手段としての、旅。

またある人にとっては旅するように暮らし、

人生こそが旅そのものであったりもする。

わたしたちは、旅に何を求めるのだろう。

旅の目的は人それぞれだけれど、

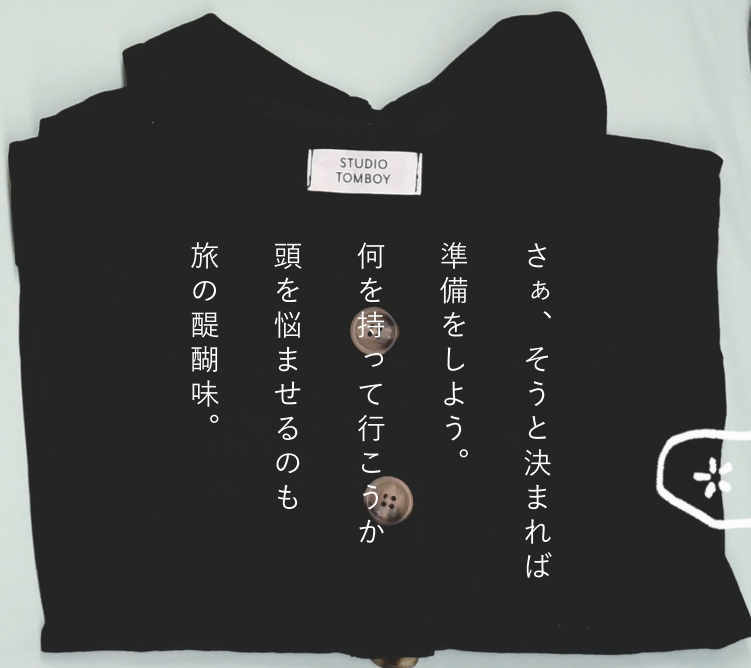
テキスタイルはいつも人に、旅に寄り添っている。

そんな旅とテキスタイルの関係に、

わたしたちはフォーカスする。

テキスタイルの力で、

旅を彩ることもできるんじゃないか？



さあ、そうと決まれば
準備をしよう。
何を持って行こうか
頭を悩ませるのも
旅の醍醐味。

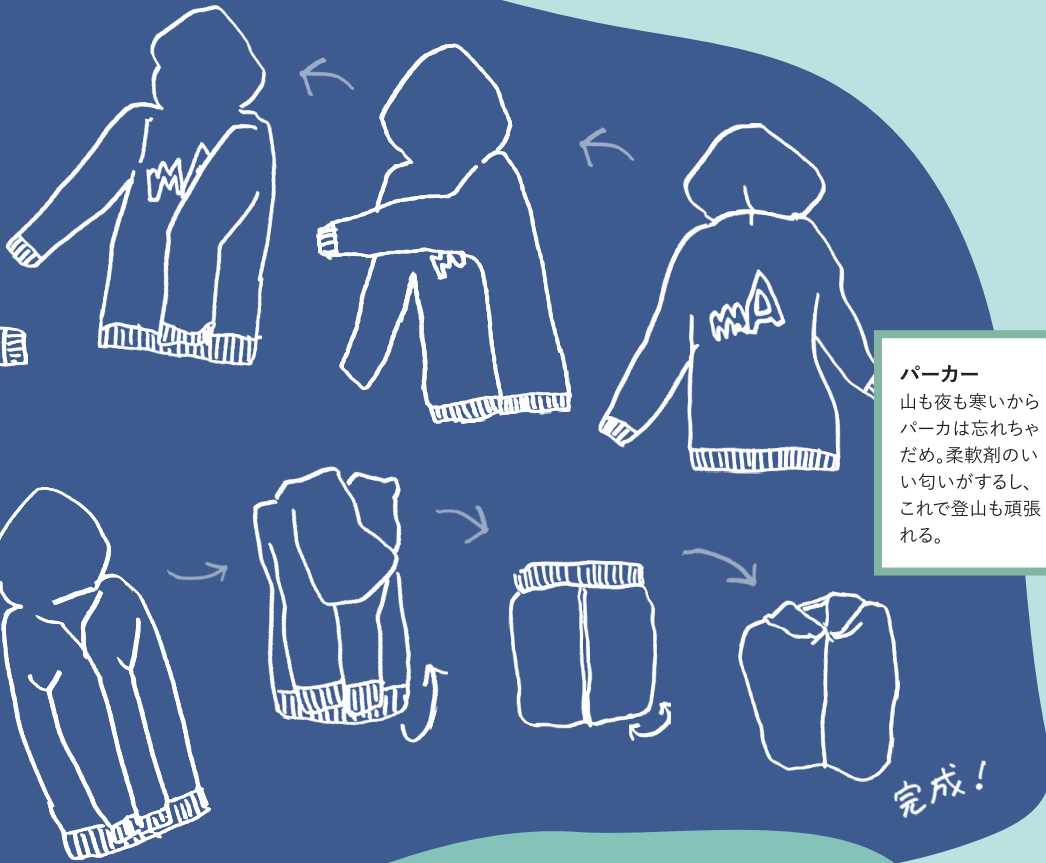


ワクワクは胸に？
いいえ、
鞆につめ込んで。

07

ワクワク感を荷物の中に入れる方法

旅の準備ってどうしてこうも胸が高まるんだろう？カラダは軽く、旅はもっと楽しく。

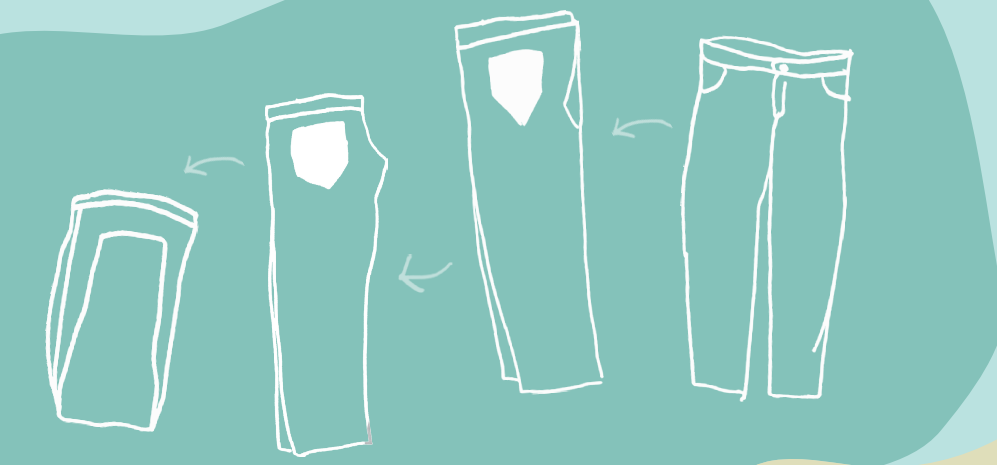


パーカー

山も夜も寒いからパーカーは忘れちゃダメ。柔軟剤のいい匂いがするし、これで登山も頑張れる。

今度こそこの可愛い水着を持って行こう。山に登るならテントとキャンプの用意もしなくちゃね。迷うけどやっぱり旅のお供はスニーカー。あ、そうそう、この帽子も忘れちゃいけないね。あれも持って行きたいし、これも持って行きたい。あれ？全部入れたらスーツケースがもういっぱい。まだ私のワクワクは入れてないのに…でも心配はしなくて大丈夫。私たちの旅はきっと楽しいに決まってる。高まる期待も荷物の中にギュッと、一緒に。

08



パンツ

迷ったけどたくさん歩くしデニムかな。今回の相方はリーバイス。

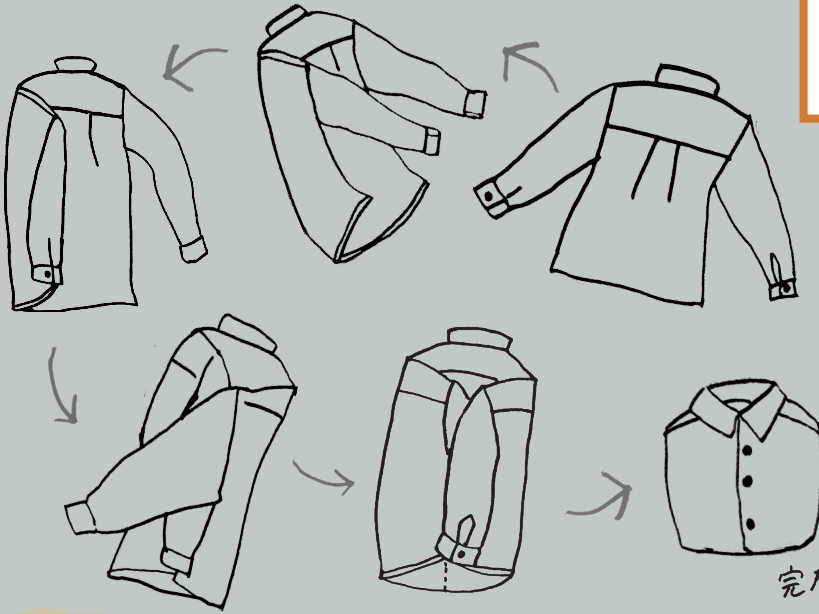
スニーカーと靴下

やっぱり足元は重要。履き慣れたお気に入りのスニーカーにピッタリな靴下を合わせればバッチリ。



シャツ

実はこれ、おじいちゃんからもらったシャツ。ゆったりと着心地も最高だからぎっと旅先でも大活躍。



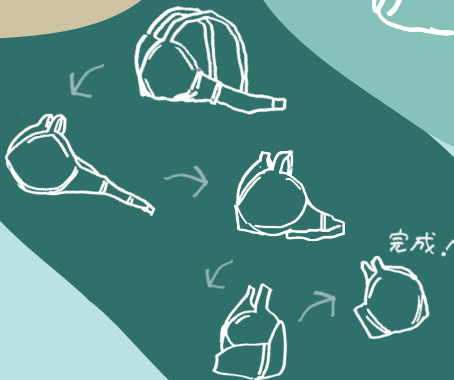
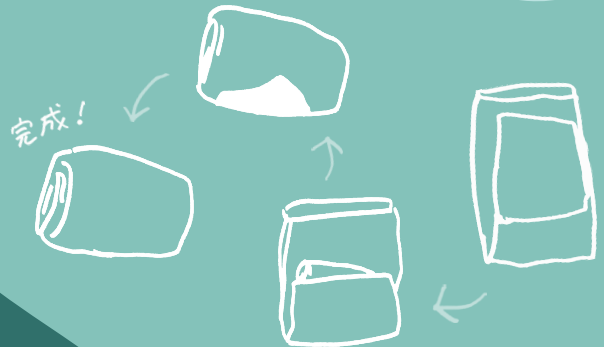
帽子

晴れはとても気持ちがいいけど、日差しはきちんとカットしなきゃ。日焼けは禁物。



Tシャツ

肌なじみのいいコットン一択。まっさらな気持ちで初めての景色を楽しみたいんだ。小さく丸めて入だけ持ってっちゃおう。



アンダーウェア

見えないくせに一番わたしの気分を左右する。とびきりのお気に入りを選んで行こう。

TABI おじゃまします。

足袋の文化が、今、復活しつつある。足袋はどのような変化を遂げて来たのか。足袋で旅に出てみよう。



江戸の町 襪から足袋

襪は、江戸時代まで使用された。素材は、錦、麻、白平絹、白練緯など。身分や儀式によって使い分けられた。革製の襪もあり、これは蹴鞠や舞楽に使用。

鎖国を始め、鹿革の入手の困難さと、明暦の江戸大火で革の値段高騰により、足袋の素材の主流は木綿になった。身分の高い者以外は足袋を履いていなかった。

花魁と足袋

身分が低いとされ、足袋を履くのを許されなかった花魁。しかし、同時に花魁が着用する襦（しかけ）の裾から白い足が出るのが美であると考えられたようだ。



平安貴族と庶民文化

貴族が束帯や直衣（のうし）に合わせて用いた、浅沓（あさぐつ）や革沓（かのくつ）などの和沓。そしてこの和沓の下に、靴下の元となる、中国より伝来の襪（しとうず）と呼ばれた「したぐつ」を履いた。

一方、庶民は革の足袋のような履物を使用。山野関係の職業の人々が、革足袋の起源となった履物を作り、その後武士が革足袋の原型となるものを履き始めたのだ。



洋装と足袋



昭和に入ると、戦争のため物資が乏しくなり「スフ」といわれる化繊の足袋の配給、白足袋、地下足袋で代用された。型が統制された足袋の配給で独特の足袋や職人技が失われる。

戦後、綿、ナイロンなどの化繊素材を使った足袋も販売されるようになった。50年代頃までは、普段着、洋装にも足袋が使用されていたが、60年代頃になると次第に靴下が主流になった。



珍素材の足袋

前に紐2本の紐足袋スタイルが確立。和装中心の文化のなか、コードュロイや、ソフトなネル裏の素材の足袋が発売され、足袋が普及。素材からしてお洒落な足袋であったようだ。コードュロイ素材の足袋はあまりお目にかれないので、この頃の足袋をぜひ履いてみたい。足袋底には、見栄えが良いうように現在使われる雲斎織や綾織の底が用いられるようになってきた。

後期は、履きやすさの点で素材が選ばれた。摩擦に強く暖かいコードュロイの足袋は引き続き普及。後に、朱子足袋や、大正期になって別珍の足袋が発売された。別珍の足袋も現在からすると珍しい。この頃から現在の型の足袋になる。

足袋ブランド

現在、足袋の隠れたブームが来ているようだ。柄や色など、デザインされた足袋が各所で取り上げられ、お洒落な足袋を製造する会社が増え始め、以前より手軽に手が出せる時代になった。

新鮮なファッションとして足袋を発表するデザイナーも増えてきている。現代の服に合うデザイン足袋が作られ、足袋を過去のものではなく、現在も使用するものとして残そうとする動きも広まった。

日本文化からインスピレーションを受けた海外のデザイナーからも足袋は注目され、足袋が海外にまで浸透していることが分かる。

パリのウインドーに並んだり、国内では足袋専門のブランドが出来たり：古くから日本に根付く足袋は、この時代でカワイイ、お洒落なアイテムとして復活しようだ。



進化した足袋

やはり普段から足袋を着用するのは珍しい時代になってしまった。現在足袋は、着物を着る時、伝統芸能、武道、祭りなどに用いられる。目的に応じて昔より工夫が施されている。底が厚い樹脂で出来たもの、防水加工、脛まで覆われているタイプや、ファスナーで簡単に着脱可能なものなど様々だ。



カルチャー的な
出会い

田園風景との出会い

優しさとの出会い

春と冬の
風景との出会い

経験との出会い

思い出との出会い

あなたは旅先で何と出会い、
何に心を動かされたのだろうか

街並との出会い



インスピレーション
との出会い

おいしい布との出会い



田園風景との出会い

金沢へ行ったとき、移動中に見える
田園風景や雨晴海岸の透き通った水に
創作意欲を刺激された。写真は千枚田。
たくさんのお米が収穫できそう。

風景との出会い



カーニバルの撮影をするために
イタリアのヴェネツィアへ訪れた時の写真。
朝5時に撮影地へ向かった際ホテルから
サンマルコ広場へ続く路地でこの景色が撮れた。
屋間の人で賑わう街並に対して
朝の静かな景色に心を動かされた。

以前から訪れたいと思っていたNYの mood という生地屋。
日本ではあまり見ないインパクトの強い柄や
テクスチャーのインテリアファブリックと出会った。
その土地によってニーズが違うから販売されている
生地も全く違う。とても刺激的な経験になった。
気に入ったファブリックのスイッチをもらったから
制作のインスピレーションとなるように保管。



インスピレーションとの出会い



おいしい布との出会い

ご飯屋さんの暖簾。
帰るときにちょうどお茶碗の
絵が見えてとっても素敵だった。
色味が綺麗で撮影した1枚。



思い出を持ち帰る。

旅に出て出会った思い出たちは持ち帰りましょう。
心の中へ大切にしまっておきましょう。
きっと、これからあなたの生活を豊かにしてくれるはず。



経験との出会い

今でも付き合いのある人との出会い。
世界各国の様々な人々との出会い。
写真では伝わらない壮大な自然との出会い。
ヒッチハイクで乗せてもらった人と
ねぶた祭りに参加したことも。
たくさんのことを経験できた。



大寒波が訪れた冬のソウル。寒くて手も顔も
痛かった。写真を撮ることが好きだから
写真を撮りに緑莎坪という場所にある住宅街
のような狭い道をただ歩いていた。
偶然入った道で都市的な建物と
昔のレンガでできたような建物が混在している
風景に出会えて、とても感動した。



春の街並みとの出会い



冬の街並みとの出会い



カルチャー的な出会い

自分の中ではステレオタイプだった
フランス。実際に行ってみたら
そのイメージが打ち砕かれた。
街が汚かったり署名運動でお金を
稼ごうとする若い女の子たち。
日本じゃ体験できないことを
目の当たりにした。行ってみないと
分からないことがたくさん分かって
旅をすると毎回考えさせられる事ばかり。

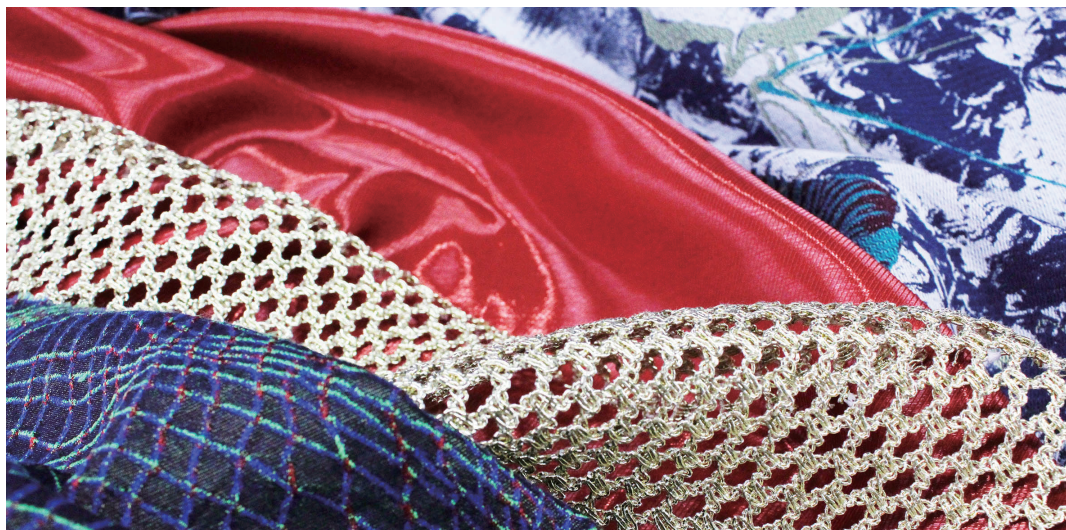


K D S

KAJIHARA
DESIGN
STUDIO

KAJIHARA DESIGN STUDIO は、日本の伝統技術を活用した新しい物作りや、価値観を創造するブランディングを通して、テキスタイルの持つ豊かな可能性を暮らしのなかに提案しています。

web site : <http://www.kajihara-design.com/>



COQ

北海道札幌にて、テキスタイルデザイナー梶原加奈子がプロデュースする、クリエイションを呼吸する場所 COQ[こきゅう]。

緑豊かな自然の中で、衣食住を通してテキスタイルを体感できる、ショップ、レストラン、ゲストハウスの複合施設です。

web site : <http://coq-textile.jp>



〒005-0855

札幌市南区常盤5条1丁目1-23

ギャラリー&ショップ :011-252-9095

ダイニング&ゲストハウス :011-252-9094

MARIKO KOBAYASHI

テキスタイルアーティスト 小林万里子

特別インタビュー

「目で見て素材を触り、体感して。作品のある空間そのものを楽しんでほしい。」

そう語る、テキスタイルアーティストの小林万里子さん。
彼女のパワフルな制作背景を今号のテーマである「旅」と結びつけて取材した。



19

「One or more」NEW WORK 吉祥寺

制作：2016年 / 素材：フェルト、網戸、和紙、麻、綿布、オーガニック、ウール、絹糸 / 撮影者：中村 絵

シェアオフィスの為のアートワーク。2羽の鳥、3匹の馬を描いていますが、それぞれが完全に孤立しているわけではなく、植物が彼らの間を繋いでいます。

©MARIKO KOBAYASHI 2016



『DISCOVER』

制作：2017年 / 素材：麻、絹、木綿、和紙、江戸打ち紐

赤く熟したコーヒーチェリーの中には、コーヒーの生産地であるエチオピア、グアテマラ、スマトラの自然とそこで働く人々の光景が広がっている。遠く銀座の地まで運ばれてきたコーヒー豆のひとつひとつには、豊かな自然と沢山の人の沢山手間と時間がその中に詰まっている。それぞれの出会いと発見が一杯のコーヒーから生まれることを願って。

メディアをチェンジ

私はもともと環境問題や動物保護に関心があり、そういった内容のポスターを作りたいと思ったのが美大を目指そうと思ったきっかけでした。ポスターの制作という事で当初はグラフィックデザイン学科を目指していましたが、結果的には併願していたテキスタイルデザイン専攻に通うことになりました。実は環境問題や動物愛護という点から、勉強強して国連に入り、メディアを通して訴えるというのも一つの方法だと考えたこともあり。しかしどんな方法や媒体であったとしても、表現したい事は私の中ではつきりしていたのでポスターで訴えたかったこと、メディアで訴えたかったことをテキスタイルを通じて表現する、というソフトチェンジは意外とスムーズに出来た感じがします。

現在はより多くの方々に私自身の思想を伝えたいという思いを、テキスタイルアートとして表現しています。これはポスターのように複製することは出来ないものですが、だからこそ一つの作品が持つ力は大きいと感じています。

凹凸を体感する楽しみ

テキスタイルを学び始めてわかったポスターをはじめとするグラフィックとの大きな違いは、同じ平面でも素材の質感を視覚で感じることができる点です。「目で触る」という言葉自体が私の大学院の



テーマの一つでもありました。触覚が関わってくることで目で見て凸凹が分かったり、描いてある内容はもちろん、質感からも伝わるものが多くあるのではないかと思います。その点でテキスタイルを学んでいて良かったなと思います。そして大学でテキスタイルについて学んでゆく中で、私は表層的な色や柄だけでなく人の生き方や動物との関わり方など、人々の暮らしの中で布がどういった役割を持ち、その地域の人に使われているかといった事に対して興味があると気がきました。また、布と紙が混ざり合って1つになるなど、複数の素材と技法を1つに融合させた作品を制作するようになりました。

例えば GINZA SIX にあるスターバックスの作品も、大きく3つのコーヒー原産国をイメージしており、作品の部分部分に麻袋や和紙などいろいろな素材を使っています。でもこの方法は、部分的に浮いてしまったりするので全体を1つにまとめるということが結構難しく、最後の最後まで試行錯誤しました。中途半端だと格好悪くなるので、やりきろうという思いが強かったですね。この制作の方法は環境問題や動物の存在などを考えた時に、様々な生き物の存在があって初めて成り立つ1つの自然環境が出来上がってゆくような、この世界と繋がっているものがあるのではないかと気づきました。この発見は、私の思考とリンクする部分があると思うので大切に制作して

旅での「縁」

今回のエムエーのテーマが旅という事で、私なりに考えてみました。旅というと、泊まる場所なんかも旅の思い出の1つになると思います。以前、「アーティストインホテル」というコンペで、ホテルの一室を自由に手掛けることが出来る仕事をさせて頂きました。その時のホテル側からのテーマが「日本の美意識」だったんですね。それに対して私は、「縁」をテーマにしました。そこに宿泊したお客様が部屋とご縁をや、普段見えない縁をその部屋に泊まって意識してもらえような部屋にということでした。制作させてもらったんです。宿泊するということはギャラリーで作品を鑑賞する事と違い、もうその空間は泊まった方だけのものだと思うんです。なのでその部屋自体が別の異次元のような意味合いで、旅に出る、部屋の中で旅をする様な気持ちになってほしいなと思いました。家具や壁なども全て手がけました。ホテルの部屋であり、その空間自体は作品でもある。きつとお客様は何かのご縁があってこの部屋に泊まる事になると思うので、旅の記憶の一つとしてこの空間を体感してほしいですね。

忘れられない

インスピレーション

作品を制作するにあたって旅といいますが、短期間の旅行に行った経験があります。かなり衝撃的な体験をして、そこで得たインスピレーションは今の作風に大きく影響しています。

もともと環境問題や動物について考えていたからというのが大きいかもしれませんが、インドで野良犬や牛が人と一緒に生活している姿に強く惹かれました。人も動物だし、動物も人と、同じように生きていた。それって凄く素敵なことだと思えます。こういう混沌とした世界をみたことで私の作品の描き方や意識する事が変わっていきました。複数の素材を交えた作風になったのも、だいたいその頃からです。今思えば、その時ちょうど制作について悩みを抱えていた時期だったので、得たものが大きかったように思います。目的がない限り、心に留まらなかったりもしますよね。掘り下げたいものがあったからこそ旅なのかもしれないね。

©MARIKO KOBAYASHI 2017



パークホテル東京 『縁』ルーム (2017年)
撮影: 富野事務所 / 協力: パークホテル東京



技法：染め、刺繍
FEI ART MUSEUM YOKOHAMA にて出展した作品



技法：フェルティング、刺繍、絞り染、織
香港、イタリアのコンペに出展し受賞

私にとっての「旅」

「旅」と一口に言っても色々な旅があると思うんです。

私は元々結構動物に感情移入するタイプで、例えば雨の日とかに道路にビチャビチャしているミミズが可哀想で「今苦しいだろう」って思ってたに戻したりするんですよ。自分の意識を超えてミミズになる。ミミズの一生になるみたいな、そういうのもある意味での旅だと思います。

今回の取材を受けて「旅」の定義を調べてみたら、「自分の家から出てさまざまな場所へ行くこと。」と

辞書には書いてありました。私にとって旅とは何かと考えた時に、自分を家だとすると、自分という意識から飛び出て、違う誰かの立場になるなどの考えの方が印象として強かったんです。遠いところに旅をするとか物理的な意味ではなく、心の中で旅をするというような違う旅の仕方ですね。

そうした旅の捉え方は、私の根底にある思想であり、私の作品と大きく関連しているのではないかと思います。

テキスタイルと共に 人生の旅をする

学部4年生の卒制でポスターをイメージした作品を布で制作しました。その作品は表現の仕方が少しストリートすぎたことで堅苦しい印象になってしまったんです。それは不本意で、違う表現方法でチャレンジしたいなということで大学院に行くことに決めました。そこで自分がやりたい環境問題や動物に対する思想表現を大切にしつつ、様々な素材を使って試行錯誤しました。素材の扱い方・量感・展示やライトアップの仕方によっても作品に出来る陰影や見え方が変わってきて面白いです。伝わりやすすぎると面白くないと思うので、その狭間を様々な角度から攻めていきたいと思いました。人生を「旅」であると考えた時に、テキスタイルは人生の最初から最後まで存在するものです。布は第二の皮膚のようなもので、人間の一生に寄り添うものであるからこそ、テキスタイルの魅力と共に私の思想を伝えてゆくことができると思います。これは一生をかけて挑戦していきます。(M)



©MARIKO KOBAYASHI 2017

小林 万里子（こばやし まりこ）／テキスタイルアーティスト

多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻・同大学院修了

- 2014 優秀賞 「Tokyo Midtown Award2014」(東京)
- 2012 3位受賞 「Premiovalcellina2012」(イタリア)
- 2011 最優秀・日比野克彦賞 「第15回フラッグアート展 in 岐阜」(岐阜)

「人と自然を繋ぐ祈りのかたち」をテーマに織る、染める、編む、刺すといった様々な技法を用いて布、糸、和紙などの素材を組み合わせた作品を制作する。

重層する形や色彩によって現れる混沌のイメージの中から、生命の本質的な姿を描き出すことを試みている。

mA の *Sponsor* になりませんか？

mA では毎号、協賛企業・団体様の広告の掲載、
編集部での広告制作のご依頼も承っております。
また随時設置場所も募集しております。

ご興味いただけましたら下記までご連絡ください。

詳細の資料をお送り致します。

他、ご相談・ご質問もお気軽にお問い合わせください。

ma.freemagazine@gmail.com

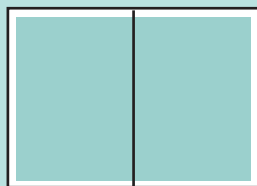
対象：アート・デザイン分野に興味のある方、学生、団体

配布：全国の大学、予備校、ギャラリー、ショップ、百貨店 etc.

【広告サイズ一覧】



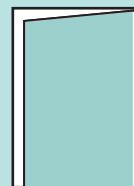
中表紙 / B5



中表紙 / B4



中ページ / B5



裏表紙 / B5

24

【設置場所】

●商業施設

- ・渋谷ヒカリエ 8 F
- ・Bunkamura ブックショップ
- ・NADiffmodern
- ・Juana de Arco 表参道店
- ・Bookshop LIBRERIA
- ・TOTO ギャラリー 間 2F
- Bookshop TOTO
- ・桂屋ファイングッズ株式会社
- 日本橋みやこ染
- ワークショップスペース somenova

●フリーペーパー専門店

- ・ONLY FREE PAPER
- ・無印良品 岡山ロッツ店
- ・MUJI BOOKS ヒカゴブレイス店
- ・只本屋

●ギャラリー

- ・デザインフェスタギャラリー
- ・spiral 青山
- ・ギンザ・グラフィック・ギャラリー
- ・クリエーションギャラリー G8
- ・ガーディアン・ガーデン

●大学

- ・東京藝術大学
- ・多摩美術大学
- 八王子キャンパス / 上野毛キャンパス
- ・武蔵野美術大学
- 鷹の台ホール / 図書館リーフレット棚
- ・東京造形大学
- ・女子美術大学
- ・大阪産業大学

他、各種予備校・商業施設等

atelier circus

あなたのイラストが服になる！デザイン専門コンペサイト



What is the atelier circus ?

アトリエサーカスはファッションブランド「merlot」が発信する、テキスタイル&プリントデザイン専門のイラストコンペサイトです。

毎月、参加ブランドよりテキスタイルやプリントに用いるデザインテーマが出题され、皆様からの作品を募ります。集まりました作品の中から、当アトリエ閲覧者の皆様の投票を基に最優秀作品が選出されます。最優秀作品には賞金が贈呈されると共に、同ブランドの製品として実際に商品化・発売されます。

ご自身の作品が実際に「服」になる喜びを感じて頂ける、全く新しいデザインコンペサイトになっております！テキスタイルやイラストにご興味のある皆様の、アクセス&ご投稿をお待ちしております。



<https://www.ateliercircus.com/> 

The editor's note

発行日 2018年11月

編集長 竹内瑠奈

編集 黒田朋香
中尾仁咲
中島由美子
平野佑依
堀口紗弥
室伏芽衣
柳沢柚月
山口葵央
渡邊萌夏
LEE HYELIM

印刷 (株) グラフィック

26

Contact

【Twitter】@ma_freemagazine

【Instagram】@ma.freemagazine

【Facebook】<https://m.facebook.com/ma.freemagazine>

【HP】<https://mafreemagazine.wixsite.com/textile>

【Mail】ma.freemagazine@gmail.com

ご意見、ご感想ありましたらぜひご連絡ください。
SNSも随時更新しております。よろしくお願いします！

設置場所

渋谷ヒカリエ 8F
スパイラル
TOTOギャラリー間
ggg
ONLY FREE PAPER
多摩美術大学
武蔵野美術大学
東京藝術大学

他全国百貨店
商業施設
ギャラリー
フリーペーパー専門店
大学、美術予備校



HP



Instagram



Twitter

「人が旅をする目的は、到着ではない。旅をすることそのものが旅なのだ。」とドイツの詩人で、劇作家であるゲーテは名言を残しています。

旅の中での出会いは、ワクワクする気持ちと共に、視野を広げることによって生まれる緊張感や不安もたくさんあるものだと思います。

しかし、未来は未知なる希望や絶望に溢れていて、それを知りたい、見たい私たちはさらに前進してゆくのです。

その過程こそが「旅」の醍醐味だと、私は思います。

今号 vol.04 / 2018AWをもって、mAは編集長を交代します。

mA編集部にはこれからも、テキスタイルを通して様々なものやことを見つめ、たくさんの方に届けられるよう、好奇心を持って新たな旅を続けていって欲しいと願います。

2018年 10月 22日

編集長 竹内瑠奈

作ってみませんか
世界にたった一つの
オリジナルテキスタイル

あなただけの色

あなただけのデザイン

こだわる肌ざわり

洋服

和服

小物
雑貨

選べる生地

有名アパレルブランドや着物のデジタルプリントを行う Digina が
その技術や工程はそのままに、小ロットの生地製作を行います。
染料による高品質プリントを 1 m からお受けします。

自社による全行程（生地投入から前処理、プリント、蒸し、洗い、仕上げ工程まで）完全一貫生産を行います。
国内生産の丁寧な仕事と高い品質をお楽しみください。



株式会社デジナ

大阪府大阪市中央区船場中央 3-1-7 7号館 282号
Tel : 050-3852-4758 mail : info@digina.jp
HP : <http://www.digina.jp/>

